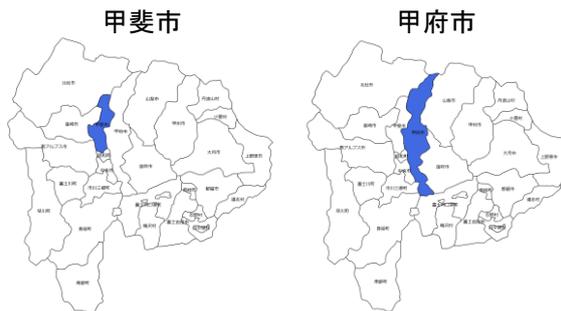


① 申請者	◎甲府市、甲斐市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	こうしゅうのたくみのげんりゅう・みたけしょうせんきょう ～すいしょうのこどうがみちびいたしんこうとわざ、そしてせんしんぎじゅつへ～		
甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>昇仙峡一帯の山地は、水の塊と信じられていた水晶を産出する水源信仰の地であり、地域を流れる荒川上流を訪ねると、悠久の時をかけた浸食により形成された大小の滝や巨石、奇岩に驚かされます。水が作った芸術品ともいえるこの溪谷美は、江戸時代末期に行われた新道開削により奇跡的に出現したのですが、地域の人々の熱意により日本有数の景勝地として磨きあげられてきました。そして、昇仙峡一帯で産出された豊富な水晶とその加工技術は、匠の技として日本一のジュエリー産業の基盤となり、更には人工水晶製造技術へと繋がってスマートフォンなどの電子機器に使用されるなど、過去から現代に至る私たちの生活を支えているのです。</p>			
水源信仰の源「五丈岩」	信仰と産業の基盤「水晶」	昇仙峡の象徴 覚円峰と天狗岩	
			
地域の信仰を集める金櫻神社			
			

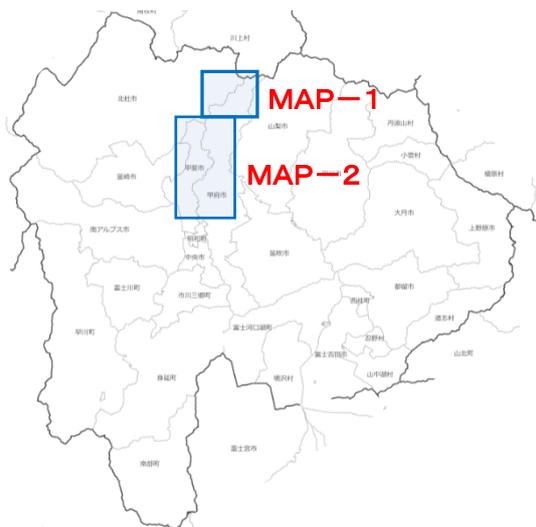
甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

市町村
位置図



構成文化財
位置図



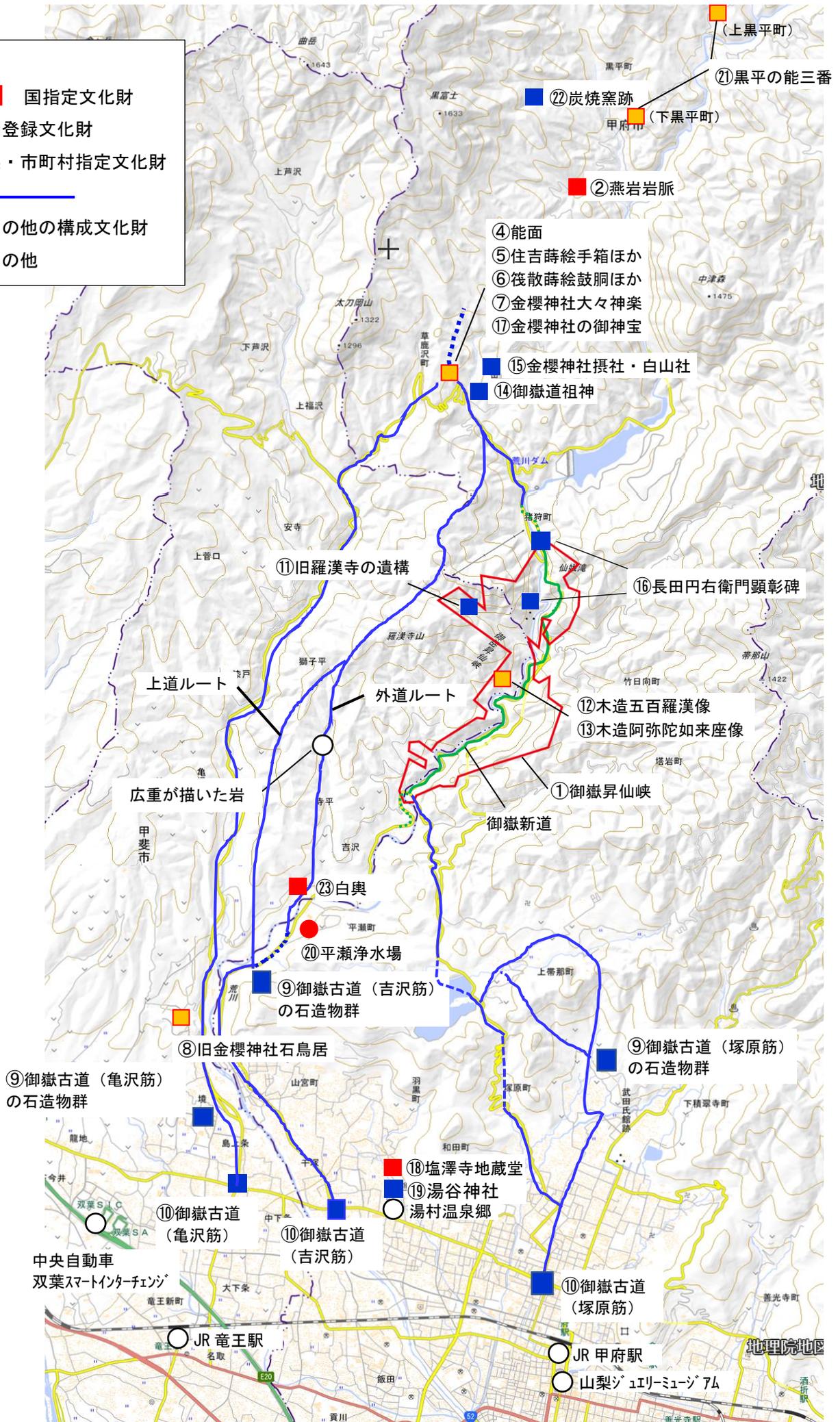
MAP-1

- 凡例
- □ 国指定文化財
 - 国登録文化財
 - 県・市町村指定文化財
 - — ③金峰山五丈岩
 - その他の構成文化財
 - その他



MAP-2

- 凡例
- □ 国指定文化財
 - 国登録文化財
 - 県・市町村指定文化財
 - 燕岩岩脈
 - ④能面
 - その他の構成文化財
 - その他



ストーリー 甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

～はじめに～

金峰山を源とする「荒川」は、隆起した花崗岩山地を悠久の時をかけ浸食し、芸術的ともいえる溪谷美と貴重な水晶をこの地にもたらしました。この「昇仙峡」の険しくも美しい造形美は、信仰の場として、また、優れた文芸のモチーフとして古くから人々の心をとらえ、さらに、水晶は山梨県の宝飾産業の基盤を形成し、現代の女性を魅了するジュエリーや、スマートフォンなどの最先端技術に繋がっていきます。

○日本有数の水晶産地

水晶は、花崗岩とともに産出されることが多い鉱物ですが、綺麗な六角形で長い結晶は、特定条件（摂氏 573 度以下の熱水中）でないと形成されないため、日本における水晶の産出地はそれほど多くありません。金峰山周辺の花崗岩を主とする地質には、黒平地区など、優れた結晶が産出される水晶鉱床がいくつもありました。

水晶の発見は水源信仰と結びつき、研磨されて金櫻神社の御神宝となっているなど、この地の信仰と深く結びついているのです。

黒平産出の水晶



○多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道

金峰山は富士山と並ぶ信仰の山であり、その里宮として鎌倉時代に建立された金櫻神社は、現在も多くの参拝客で賑わいます。桃山時代には、甲斐武田氏の祈願所としても崇拝され、武田勝頼が奉納した能面八面、住吉蒔絵手箱、家紋散蒔絵手箱などが現在も大切に保存されています。

また、甲斐市には、当時の参詣道の入口に建てられていた鎌倉時代の石鳥居が発掘・復元されています。参詣道入口から弥三郎岳を越えて金櫻神社に向かう険しい道は、御嶽古道と呼ばれ、かつて歌川広重もここを訪れています。

この地に残る石造物群や修験道場として開基された旧羅漢寺の遺構、また、現在の羅漢寺に移されている木造五百羅漢像などに、往時の山岳信仰の様子を感じ取ることができます。

○御嶽新道と特別名勝の指定

修験道場になるほどの険しい山道しかなかったこの溪谷の地に、江戸時代末期に新たな歴史を刻んだ人物がいます。

昇仙峡の奥地の集落に暮らす長田円右衛門が、親族や多くの協力者とともに 9 年の歳月をかけて、荒川沿いに新たな道（御嶽新道）を切り拓き甲府城下と奥地の村を結んだのです。

特に御嶽新道の途中にある石門と呼ばれる箇所では、険しい岩肌を開削した作業の苦労を偲ぶことができます。

この新道開削は村人の生活を便利にしたばかりでなく、昇仙峡の素晴らしい景観を人々の目に触れるようにした画期的な役割を果たしました。

そして、荒川の溪流とともに、花崗岩の風化による節理や水晶を含む白砂と松などの樹木が織りなす景観は、内陸の「白砂青松」と賞され、明治時代から景勝地として道路などが徐々に整備されました。大正 12 年には国名勝、昭和 28 年には特別名勝の指定を受け、麓に湧く湯村温泉とともに山梨県有数の観光地として発展し、今も地域の人を中心に景観維持活動が行われるなど、地域の宝として大切に維持されています。

新道開削の難所「石門」



「仙娥滝」



○江戸時代から続く水晶研磨技術とジュエリー産業の隆盛

金櫻神社には、御神宝として水晶玉が奉られています。この水晶玉の加工技術は京都で水晶玉加工販売をしていた玉屋の番頭弥助が水晶買い付けの際、金櫻神社の神官達に伝授したといわれています。

弥助から水晶研磨加工の技術を伝授された神官達は、その後も水晶研磨技術を継承発展させ、江戸時代には甲府の町内で水晶細工物（眼鏡、玉根付、数珠等）の加工販売が始まり、明治時代には地場産業として事業者が集積するようになりました。

やがて、昭和時代には水晶加工品として国内外へ広く流通するようになり、戦後においても、こうした事業者の集積を生かして宝石研磨技術、貴金属加工技術を更に発展させ、企業数約1,000社を誇る日本一のジュエリー産業の集積地となり、現在に至っています。

そして、甲府市の「山梨ジュエリーミュージアム」では水晶に関わる歴史や工具などの資料を見ることができるほか、現在の名工達の指導のもと、宝石研磨体験メニューも用意されており、誰でも匠の技の一端を体験することができます。

金櫻神社の御神宝



山梨ジュエリーミュージアム



○甲州水晶貴石細工

甲府市で作られている宝飾加工品のうち甲州水晶貴石細工は、江戸時代から続く伝統的な技術や原材料を用いて作られた工芸品として、昭和51年経済産業大臣から伝統的工芸品の指定を受けています。

職人の卓越した匠の技により生み出された繊細で芸術的な彫刻品や装飾品は、今でも甲府市内を中心に33の工房で生産されており、特に江戸時代から続く老舗である土屋華章には江戸期の顧客台帳や工具が保存され、当時から水晶細工が甲府市の重要な産業であったことを知ることができます。

甲州水晶貴石細工

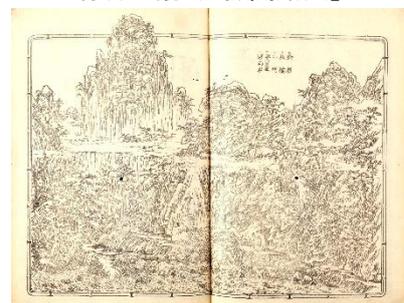


○文学、絵画における昇仙峡

昇仙峡は、水晶とともに多くの人の心を引き寄せ、明治から昭和初期にかけて多くの歌人が訪れています。特に与謝野晶子は数多くの短歌を詠んでおり、山梨県立文学館で鑑賞することができます。

また、絵画でも、浮世絵画家の歌川広重が甲府に逗留した際、昇仙峡の御嶽古道（外道）を訪れスケッチを残しているほか、竹村三陽が新道開削当時の昇仙峡の様子を描いた仙嶽關路図や、南宋画の三枝雲岱の御嶽新道図などが知られており、いくつかの作品は山梨県立博物館で観ることができます。

竹村三陽「仙嶽關路図」



○名水地と湯村温泉郷

昇仙峡の清流は名水としても知られ、甲府市と甲斐市では農業用水や水道水として利用されています。

また、水源地としての昇仙峡は、地下水脈も生み出し地中で温められた水脈は麓では温泉として湧き出し、江戸時代末期には庶民が利用する湯治場として、甲斐国随一の集客を誇る温泉地となりました。

湯村温泉郷は、その後、太宰治や井伏鱒二など文人達の創作の場となったほか、塩澤寺や湯谷神社とともに、昇仙峡観光の宿泊地として多くの人々に親しまれ、今も観光の拠点として利用されています。

湯村の塩澤寺



～おわりに～

この地域が日本有数の水晶の産地であったことから、山梨大学では戦前から水晶に関する研究が行われ、日本で最初に人工水晶の工業化に成功したことが知られています。

人工水晶は水晶発振子の量産化をもたらし、コンピュータや通信機器の重要部品として広く使われるようになりましたが、このことは、古から人々を魅了してきた水晶の鼓動が、最先端の通信技術を支えているともいえるのではないのでしょうか。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の 状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所 在地(※4)
①	みたけしょうせんきょう 御嶽昇仙峡	国 特別名勝	(ストーリーの基盤) 巨岩や奇岩、奇石群を擁し、希少な造形美を形成する日本有数の渓谷。	甲府市 甲斐市
②	つばくろいわがんみやく 燕岩岩脈	国 天然記念物	(日本有数の水晶産地) この岩脈は黒富士火山を構成する火山岩類のひとつで、昇仙峡の形成に大きく関わっている。 何万年も続いた火山活動の歴史を語りかけてくれる貴重な自然遺産である。	甲府市
③	きんぶさんごじょういわ 金峰山五丈岩	未指定 (名勝)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 五丈岩は標高2,599mの金峰山山頂にある巨大な花崗岩で、金櫻神社の本宮となっている。 山頂からは、水の信仰に関わる土馬や水晶玉などが発見され、出土品は山梨県立博物館に展示されている。 山頂の美しい眺望は、修験者のみならず、多くの登山者や写真・文学愛好者をも魅了している。	甲府市
④	のうめん 能面	山梨県 有形文化財 (工芸品)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 甲斐国の武将武田勝頼が金櫻神社に奉納したと伝えられる本社の宝物のひとつ。 金峰山の里宮として建立された金櫻神社が中世以降武田氏をはじめ領主・武将などの厚い加護を受けていたことを今に伝える貴重な資料である。	甲府市
⑤	すみよしまきえてばこ 住吉蒔絵手箱 かもんちらしまきえてばこ 家紋散蒔絵手箱	山梨県 有形文化財 (工芸品)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 住吉蒔絵手箱は、金櫻神社宝物帳に「武田信玄公母堂奉納」とされている本社の宝物のひとつ。 また、家紋散蒔絵手箱も武田家ゆかりのものと考えられている。	甲府市
⑥	いかだちらしまきえこどう 筏散蒔絵鼓胴 ぶぐちらしまきえこどう 武具散蒔絵鼓胴	山梨県 有形文化財 (工芸品)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 金櫻神社の宝物として能面と一連のものである。 桃山蒔絵の技術と意匠をいかんなく発揮した優品である。	甲府市
⑦	かなざくらじんじやだいだいかぐらつたりめん 金櫻神社大々神楽付面 と衣装	甲府市 無形民俗 文化財	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 修験の地である金櫻神社に室町時代から奉納されている民俗芸能。二十六座のうちには修験の所作が随所に認められ、金峰山麓に育った特異性を持つ。 その舞は、今もなお五月の例大祭において、山々の桜、新緑の木々とともに人々を魅了する。	甲府市

⑧	<small>きゅうかなざくらじんじやいしとりい</small> 旧金櫻神社石鳥居 (指定上の名称は <small>きゅうかなざくらじんじやいしとりい</small> 旧金櫻神社石鳥居)	山梨県 有形文化財 (建造物)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 昭和59年(1984)の発掘調査によって発見された金櫻神社の一の鳥居で、鎌倉時代のものである。 現在は、駐車場を確保できる甲斐市の総合公園内に、金峰山方向に遥拝できるかたちで移設建立されている。	甲斐市
⑨	<small>みたけこどう</small> 御嶽古道(亀沢、吉沢、 <small>せきぞうぶつぐん</small> 塚原の3筋)の石造物群	未指定 (史跡)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 金峰山への参拝の道は、江戸時代に「御嶽九筋」と呼ばれる複数の御嶽道(古道)が整備され、亀沢、吉沢、塚原の3筋は御嶽信仰における主要なルートであった。 それぞれの道筋には、金峰山五丈岩や金櫻神社と古の人々の祈りを繋げた石造物群を、今も観ることができる。	甲府市・甲斐市
⑩	<small>みたけこどう</small> 御嶽古道	未指定 (史跡)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 当時の甲斐国と信濃国を結ぶ幹線道路である穂坂路に接道していたのが、亀沢、吉沢、塚原の3筋であり、御嶽信仰における主要なルートであった。 江戸時代の浮世絵師 歌川広重も御嶽古道を歩いて金櫻神社へ参詣し、その折りに古道の奇石や景色を描いている。 広重が絵にした風景を、この場所で今も観ることができる。	甲府市・甲斐市
⑪	<small>きゅうらかんじ いこう</small> 旧羅漢寺の遺構	未指定 (史跡)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 羅漢寺は大永年間(1521-1527)に創建されたとされ、開基当時は、羅漢寺山の中腹にあったが慶安4年(1651)に火災で消失し、その後、新道開削により木造羅漢像とともに現在の場所に再建された。 旧羅漢寺跡には、当時の石組みなど、かつての遺構が観られる。	甲斐市
⑫	<small>もくぞうごひゃくらかんぞう</small> 木造五百羅漢像	山梨県 有形文化財 (彫刻)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 修験道場として開基された、その名も羅漢寺に伝わる羅漢像。 寺は、昇仙峡を象徴する覚円峰を抱く山に建立され、山の名も羅漢寺山という。	甲斐市
⑬	<small>もくぞうあみだにょらいぎぞう</small> 木造阿弥陀如来坐像	山梨県 有形文化財 (彫刻)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 修験道場として開基された羅漢寺に伝わる阿弥陀如来。	甲斐市
⑭	<small>みたけこどうそじん</small> 御嶽道祖神	未指定 (有形民俗)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 山岳信仰、御嶽道に残る道祖神。多くの道祖神のほか、道標・巡拝塔が立ち並び、訪ねると江戸時代の巡礼気分がいざなう。	甲府市

⑮	かなざくらじんじやせつしや 白山社 金櫻神社摂社・白山社	未指定 (史跡)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 金峰山の里宮として建立された金櫻神社の現存する数少ない摂社のひとつ。今も県内各地の白山崇敬者の拝礼を受ける。	甲府市
⑯	おさだえん えもんけんしやう ひ 長田円右衛門顕彰碑 (たきうえ たました 滝上・滝下)	未指定 (史跡)	(御嶽新道と特別名勝の指定) 昇仙峡という呼称以前、御嶽が広く世に知られるきっかけとなった新道を開拓した長田円右衛門。村人を助け、文人画家を招き、遊覧客を接待した。 甲府勤番士にも支えられ、甲府代官所とも連携した。その功績は顕彰碑に刻まれ、滝上と滝下にあり、昇仙峡のそれぞれの地で今の世も多くの人々にたたえられている。	甲府市
⑰	かなざくらじんじや ごしんぼう 金櫻神社の御神宝	未指定 (工芸品)	(江戸時代から続く水晶研磨技術とジュエリー産業の隆盛) 金櫻神社の御神宝。 この水晶玉の加工技術は京都で水晶玉加工販売をしていた玉屋の番頭弥助が水晶買い付けの際、金櫻神社の神官達に伝授したといわれている。	甲府市
⑱	えんたくじじぞうどう 塩澤寺地蔵堂 (指定上の名称は 塩沢寺地蔵堂)	国 重要文化財 (建造物)	(名水地と湯村温泉郷) 天曆9年(955)、空也上人開創と伝える。古湯・湯村温泉郷にあり、湯治・療養・観光・登山等、信仰厚い厄除け地蔵尊をお守りする。 毎年2月13日正午から14日正午に開かれる「厄除け地蔵尊祭り」には県内外から大勢の人々で賑わう。 古くから地域の信仰、湯村観光の要所である。	甲府市
⑲	ゆたにじんじや 湯谷神社	未指定 (建造物)	(名水地と湯村温泉郷) 大同3年(808)、弘法大師によって開湯されたのが湯村前身である志麻の湯。 志麻の世より信仰され、秋葉権現、大宮さん、湯村温泉郷の守り神である湯谷大権現を合せて祭神とする。 なかでも湯谷権現は慶長6年(1601)の検地帳(広瀬家古文書)にも書かれており、中世を今に伝える歴史遺産である。	甲府市
⑳	ひらせじやうすいじやう 平瀬浄水場 きゅうろくかいげすいせい 旧瀘過池整水井 きゅうしゆすいこうもんぶ 旧取水口門部 ほか3件 ひらせすいげんきゅうじむしょ 平瀬水源旧事務所	国 登録文化財	(名水地と湯村温泉郷) 江戸の時代から甲府城下には御嶽の水が届けられた。花崗閃緑岩が名水を作り、今もなお「甲府のおいしい水」として県内外で知られている。 本文化財は、昇仙峡の名水を浄水し市民に送り届けていた施設の遺構であり水道近代化のシンボルとして残されている。 なかでも平瀬水源旧事務所は、資料館として公開され、水道の歴史を知ることができる。	甲府市

⑳	<small>くろへら のうきんぱ</small> 黒平の能三番	山梨県 無形民俗 文化財	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) かつて水晶を採掘していた黒平地域に伝わる民俗芸能。上黒平、下黒平の二地域で傳承されている。 傳承者は鎌倉時代に都から落ちのび住み着いた藤原房秀と伝えられている。	甲府市
㉑	<small>すみやきかまあと</small> 炭焼窯跡	未指定 (史跡)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) その昔、黒平の集落の人々は炭を焼き、険しい御嶽古道を通り甲府に売りに来ていた。 黒平のキャンプ場から、黒富士への山岳ルートを辿ると、今でもその跡を観ることができる。	甲府市
㉒	<small>しろこし</small> 白輿	国 重要文化財 (工芸品)	(多くの信仰を集めた金櫻神社と御嶽古道) 「承久の乱」により順徳天皇が佐渡に流されていた時期に、越後寺泊から金櫻神社へ勅使を使わした折に奉納品を載せた輿。	甲斐市

構成文化財の写真一覧

① 御嶽昇仙峡



② 燕岩岩脈



③ 金峰山五丈岩



④ 能面



⑤ 住吉蒔絵手箱



⑤ 家紋散蒔絵手箱



⑥ 笈散蒔絵鼓胴



⑥ 武具散蒔絵鼓胴



⑦ 金櫻神社大々神楽付面と衣装



⑧ 旧金櫻神社石鳥居



⑨ 御嶽古道（亀沢筋）の石造物群



⑨ 御嶽古道（吉沢筋）の石造物群



⑨ 御嶽古道（塚原筋）の石造物群



⑩ 御嶽古道（亀沢筋）



⑩ 御嶽古道（吉沢筋）



⑩ 御嶽古道 (塚原筋)



⑪ 旧羅漢寺の遺構



⑫ 木造五百羅漢像



⑬ 木造阿弥陀如来坐像



⑭ 御嶽道祖神



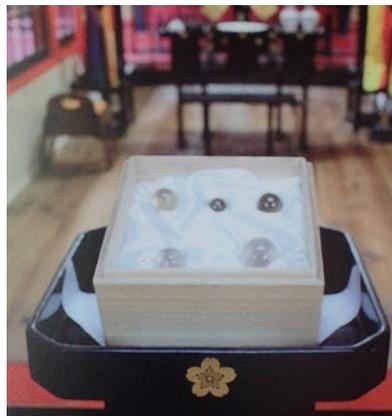
⑮ 金櫻神社摂社・白山社



⑩ 長田円右衛門顕彰碑



⑪ 金櫻神社の御神宝



⑫ 塩澤寺地藏堂



⑬ 湯谷神社



⑭ 平瀬浄水場



⑮ 黒平の能三番



② 炭焼窯跡



③ 白輿



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

甲武信ユネスコエコパークの一角に位置する「昇仙峡」は、国の特別名勝にも指定され、山梨県有数の観光地として多くの人々の目を癒し、楽しませてきたばかりでなく、「昇仙峡」を形作った荒川の清らかな水は、住民の水瓶として無くてはならない宝となっている。また、この地域から採掘された水晶を研磨する技術の発展が、日本一のシェアを誇るジュエリー産業へと繋がっているなど、「昇仙峡」は長きに渡って地域住民の生活と密接な関わりを持ち、地域住民の生活の基盤を支え、地域経済の発展を導いてきた。

甲府市・甲斐市では、こうした「昇仙峡」が源となり流れ出た多種多様な資源を再認識し、そこから新たな価値を見出すことにより、地域住民にとっては生活を支える財産として、そして訪れる人にとっては憩いと学びの場となるような「昇仙峡」を目指していく。

<未来の昇仙峡>

- ・住民が四季を通じて訪れ、遊歩道を散策したり、食事をしたりちょっとした息抜きや娯楽にも気軽に訪れることができる場となる。
- ・子どもたちが雄大な自然の営みと地域文化、信仰の歴史を学ぶ学習の場となる。
- ・国内外の観光客が、昇仙峡を旅の目的地として訪れ、溪谷沿いの散策やアクティビティなど、趣味・趣向に応じた遊びや癒しを得られる場となる。
- ・ジュエリー産業が集積し、売買などが活発に行われる世界有数の「宝石のまち・甲府」として、国際的にも認識され、世界中のバイヤーが集う国際都市となる。

<取組方法>

- ・昇仙峡リバイバル会議において、「昇仙峡リバイバルプラン」を策定し、「昇仙峡」の課題や理想とする姿について共通認識を培ってきた経験を原動力に、取り組むべき施策に対して官民協力して対応する体制を構築した。
- ・実施した事業について、PDCAサイクルに基づき、昇仙峡リバイバル会議の構成員を軸とする協議会において、責任をもって進行管理していく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

①構成資産等の魅力を更に向上させる取組

- ・住民がシティ・プライドをもって「昇仙峡」の歴史や見所などを語れるよう、小さいころより社会科実習や自然学習などの活動先として訪れるほか、他県からの修学旅行の目的地として訪れる場所となるよう、構成資産の価値を深め文化と歴史を探究する調査研究を行う。
- ・「昇仙峡」から採掘された水晶を研磨する技術の発展により形成されたジュエリー産業は、地域の経済活動に大きな影響を及ぼしており、それらの歴史や発展の過程等を調査・分析し、整理・資料化することにより、地域の歴史を再認識し、後世に伝えていくことが可能となる。
- ・構成文化財や昇仙峡の自然を調査し、歴史的背景や事実を整理分析することにより新たな魅力の発掘を行い、テーマや年代、趣向にあう周遊コースやツアーの造成を行う。
- ・構成資産の魅力を更に向上させるため、マツクイムシ防除や河川内の葦類除去など溪谷の景観維持対策の実施、駐車場、トイレ、遊歩道、案内表示等の整備、親子連れが楽しめる親水エリアの形成などを官民一体となって進める。

②受入体制の強化、おもてなし力の向上

- ・「昇仙峡」と周辺にまつわる歴史、文化、自然を案内するガイドを養成し、地域の魅力を効果的に伝える。有償によるガイドとし、持続可能な体制づくりを整備する。合わせて、多言語での対応が可能な体制とする。

③地域の魅力を総合的に情報発信

- ・「昇仙峡」の自然や、史跡・文化などのコンテンツの磨き上げによる新たな価値の創出、他の観光地との差別化などを行い、それらを基に、国内外に向け「昇仙峡」の魅力の発信や、地域全体のイメージの統一を図り、もって交流人口の増加を目指す。

④インバウンド客の受入体制整備

- ・外国人観光客が景観や構成文化財の魅力を十分に理解してもらえるよう、多言語での案内表示やパンフレットの整備をするほか、多言語対応ガイドの養成などに取り組む。

⑤課題や将来像へ取り組む体制の構築

- ・「昇仙峡」の将来像の実現に向け、地域住民や関係事業者が主体的に連携し取り組む環境を実現するために、課題や理想とする姿について共通認識をもち、協力して「昇仙峡リバイバルプラン」の策定を行っており、今後についても継続してプランの実現に向け、事業を実施していく。

(3) 自立的・継続的な取組

当地域においては、県、地元自治体や観光協会、宿泊関係、二次交通事業者などの関係団体が連携して、「昇仙峡リバイバル会議」を組織し、既に活性化事業に取り組む枠組みを形成しており、日本遺産認定後はこの会議を母体とした「昇仙峡地域活性化推進協議会(仮称)」を設置し、(2)の事業を実施していくほか、補助事業終了後も、地域振興に係る各種事業を継続的に実施していく。

また、自立的、継続的な取り組みをしていくため、構成自治体による負担金のほか、有償ガイドの育成やオリジナル商品の開発・販売等による独自財源の確保に努めていくほか、協議会内に設置するワーキンググループごとに地域リーダーを育成し、ガイドの養成や日本遺産サポーターズクラブ制度の構築等による地域活動の展開などにより、継続的な体制整備に努める。

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

甲武信ユネスコエコパークの一角に位置する「昇仙峡」は、国の特別名勝にも指定され、山梨県有数の観光地として多くの人々の目を癒し、楽しませてきたばかりでなく、「昇仙峡」を形作った荒川の清らかな水は、住民の水瓶として無くてはならない宝となっている。また、この地域から採掘された水晶を研磨する技術の発展が、日本一のシェアを誇るジュエリー産業へと繋がっているなど、「昇仙峡」は長きに渡って地域住民の生活と密接な関わりを持ち、地域住民の生活の基盤を支え、地域経済の発展を導いてきた。

甲府市・甲斐市では、こうした「昇仙峡」が源となり流れ出た多種多様な資源を再認識し、そこから新たな価値を見出すことにより、地域住民にとっては生活を支える財産として、そして訪れる人にとっては憩いと学びの場となるような「昇仙峡」を目指していく。

<未来の昇仙峡>

- ・住民が四季を通じて訪れ、遊歩道を散策したり、食事をしたりちょっとした息抜きや娯楽にも気軽に訪れることができる場となる。
- ・子どもたちが雄大な自然の営みと地域文化、信仰の歴史を学ぶ学習の場となる。
- ・国内外の観光客が、昇仙峡を旅の目的地として訪れ、溪谷沿いの散策やアクティビティなど、趣味・趣向に応じた遊びや癒しを得られる場となる。
- ・ジュエリー産業が集積し、売買などが活発に行われる世界有数の「宝石のまち・甲府」として、国際的にも認識され、世界中のバイヤーが集う国際都市となる。

<取組方法>

- ・昇仙峡リバイバル会議において、「昇仙峡リバイバルプラン」を策定し、「昇仙峡」の課題や理想とする姿について共通認識を培ってきた経験を原動力に、取り組むべき施策に対して官民協力して対応する体制を構築した。
- ・実施した事業について、PDCAサイクルに基づき、昇仙峡リバイバル会議の構成員を軸とする協議会において、責任をもって進行管理していく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

①構成資産等の魅力を更に向上させる取組

- ・住民がシティ・プライドをもって「昇仙峡」の歴史や見所などを語れるよう、小さいころより社会科実習や自然学習などの活動先として訪れるほか、他県からの修学旅行の目的地として訪れる場所となるよう、構成資産の価値を深め文化と歴史を探究する調査研究を行う。
- ・「昇仙峡」から採掘された水晶を研磨する技術の発展により形成されたジュエリー産業は、地域の経済活動に大きな影響を及ぼしており、それらの歴史や発展の過程等を調査・分析し、整理・資料化することにより、地域の歴史を再認識し、後世に伝えていくことが可能となる。
- ・構成文化財や昇仙峡の自然を調査し、歴史的背景や事実を整理分析することにより新たな魅力の発掘を行い、テーマや年代、趣向にあう周遊コースやツアーの造成を行う。
- ・構成資産の魅力を更に向上させるため、マツクイムシ防除や河川内の葦類除去など溪谷の景観維持対策の実施、駐車場、トイレ、遊歩道、案内表示等の整備、親子連れが楽しめる親水エリアの形成などを官民一体となって進める。

②受入体制の強化、おもてなし力の向上

- ・「昇仙峡」と周辺にまつわる歴史、文化、自然を案内するガイドを養成し、地域の魅力を効果的に伝える。有償によるガイドとし、持続可能な体制づくりを整備する。合わせて、多言語での対応が可能な体制とする。

③地域の魅力を総合的に情報発信

- ・「昇仙峡」の自然や、史跡・文化などのコンテンツの磨き上げによる新たな価値の創出、他の観光地との差別化などを行い、それらを基に、国内外に向け「昇仙峡」の魅力の発信や、地域全体のイメージの統一を図り、もって交流人口の増加を目指す。

④インバウンド客の受入体制整備

- ・外国人観光客が景観や構成文化財の魅力を十分に理解してもらえるよう、多言語での案内表示やパンフレットの整備をするほか、多言語対応ガイドの養成などに取り組む。

⑤課題や将来像へ取り組む体制の構築

- ・「昇仙峡」の将来像の実現に向け、地域住民や関係事業者が主体的に連携し取り組む環境を実現するために、課題や理想とする姿について共通認識をもち、協力して「昇仙峡リバイバルプラン」の策定を行っており、今後についても継続してプランの実現に向け、事業を実施していく。

(3) 自立的・継続的な取組

当地域においては、県、地元自治体や観光協会、宿泊関係、二次交通事業者などの関係団体が連携して、「昇仙峡リバイバル会議」を組織し、既に活性化事業に取り組む枠組みを形成しており、日本遺産認定後はこの会議を母体とした「昇仙峡地域活性化推進協議会(仮称)」を設置し、(2)の事業を実施していくほか、補助事業終了後においても、地域振興に係る各種事業を継続的に実施していく。

また、自立的、継続的な取り組みをしていくため、構成自治体による負担金のほか、有償ガイドの育成やオリジナル商品の開発・販売等による独自財源の確保に努めていくほか、協議会内に設置するワーキンググループごとに地域リーダーを育成し、ガイドの養成や日本遺産サポーターズクラブ制度の構築等による地域活動の展開などにより、継続的な体制整備に努める。

(4) 実施体制

■協議会の名称

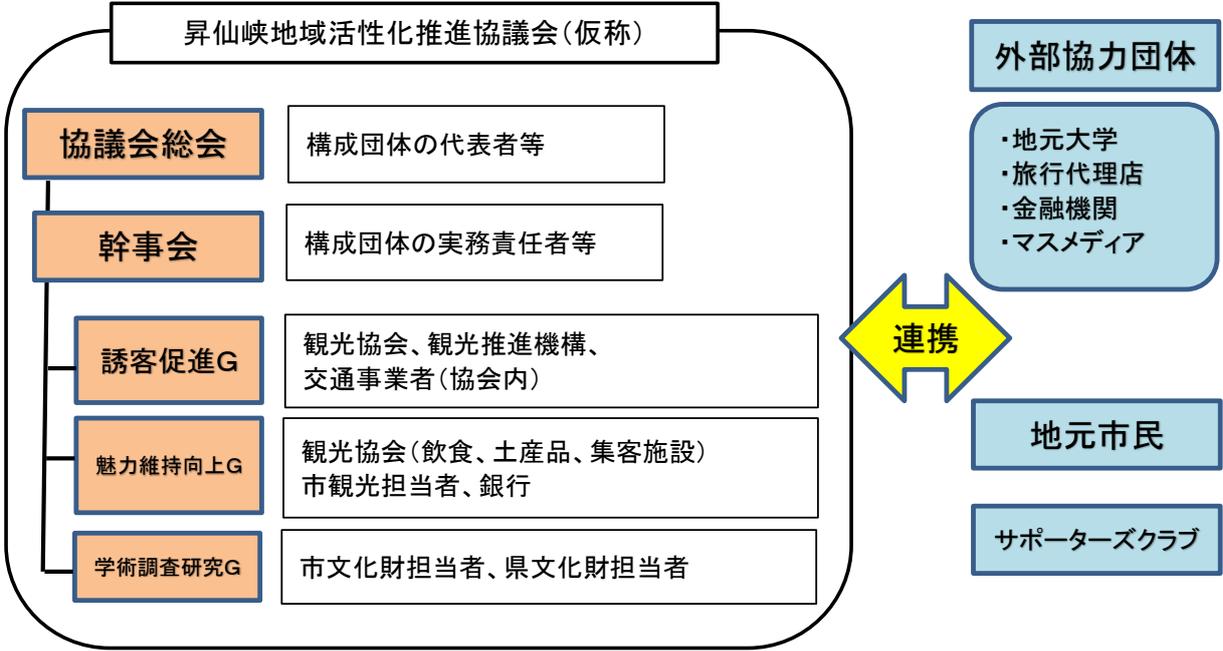
「昇仙峡地域活性化推進協議会（仮称）」

■構成団体

甲府市（観光課、歴史文化財課）、甲斐市（商工観光課、生涯学習文化課）、山梨県（観光資源課、学術文化財課）、昇仙峡観光協会、（一社）甲府市観光協会、（公社）やまなし観光推進機構、湯村温泉旅館協同組合、甲府ホテル旅館協同組合

■協議会の中に次のワーキンググループを設置して、事業の円滑な推進を図る。

- ①誘客促進グループ
- ②魅力維持向上グループ
- ③学術調査研究グループ



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：

別紙①のとおり

期待される効果：

日本遺産の取組を通じて、当地域が富士山と並ぶ景観、歴史を有することを情報発信することにより、インバウンドを含む国内外からの観光客の誘客を促進し、地域全体の観光入込客数の拡大が図られる。
また、構成資産等の魅力を向上させることにより、滞在時間の延長と観光消費額の増大が図られ、地域経済の活性化が見込まれる。
更に、人材育成等の協議会活動により、地域コミュニティの維持や地域全体のおもてなしスキルの向上による地域のファンやリピーターの確保が期待でき、地域活性化に繋がるものと考えられる。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

事業費：

令和2度：

20,290千円

令和3度：

24,860千円

令和4度：

33,950千円

(7) その他事業

別紙③のとおり

(4) 実施体制

■協議会の名称

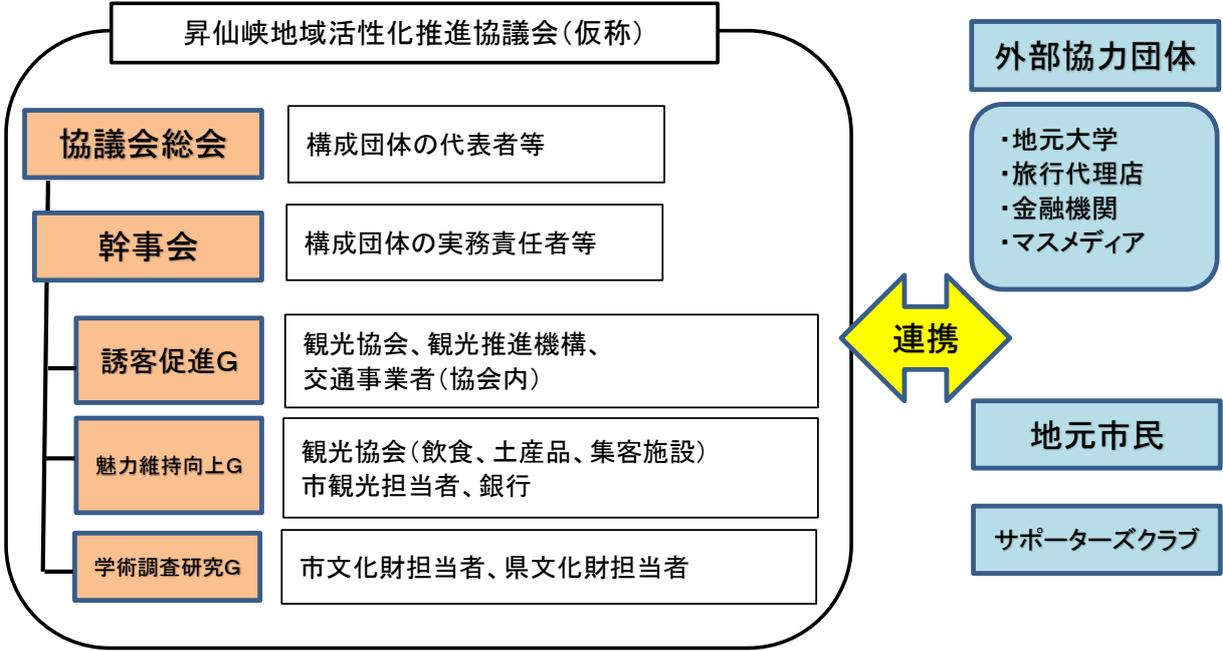
「昇仙峡地域活性化推進協議会（仮称）」

■構成団体

甲府市（観光課、歴史文化財課）、甲斐市（商工観光課、生涯学習文化課）、山梨県（観光資源課、学術文化財課）、昇仙峡観光協会、（一社）甲府市観光協会、（公社）やまなし観光推進機構、湯村温泉旅館協同組合、甲府ホテル旅館協同組合

■協議会の中に次のワーキンググループを設置して、事業の円滑な推進を図る。

- ①誘客促進グループ
- ②魅力維持向上グループ
- ③学術調査研究グループ



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果	定量的評価：別紙①のとおり								
期待される効果：	<p>日本遺産の取組を通じて、当地域が富士山と並ぶ景観、歴史を有することを情報発信することにより、インバウンドを含む国内外からの観光客の誘客を促進し、地域全体の観光入込客数の拡大が図られる。</p> <p>また、構成資産等の魅力を向上させることにより、滞在時間の延長と観光消費額の増大が図られ、地域経済の活性化が見込まれる。</p> <p>更に、人材育成等の協議会活動により、地域コミュニティの維持や地域全体のおもてなしスキルの向上による地域のファンやリピーターの確保が期待でき、地域活性化に繋がるものと考えられる。</p>								
(6) 日本遺産魅力発信推進事業	別紙②のとおり								
事業費：	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">令和2度：</td> <td style="width: 25%;">20,290千円</td> <td style="width: 25%;">令和3度：</td> <td style="width: 25%;">24,860千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>令和4度：</td> <td>33,950千円</td> </tr> </table>	令和2度：	20,290千円	令和3度：	24,860千円			令和4度：	33,950千円
令和2度：	20,290千円	令和3度：	24,860千円						
		令和4度：	33,950千円						
(7) その他事業	別紙③のとおり								

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光入込客数及び外国人宿泊者数
具体的な指標：	甲府市の観光統計における入込客数及び外国人宿泊者数
関連事業：	② ③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
目標値： 入込客数 外国人宿泊者数	令和 1 年 415,000 8,000 人 ⇒ 令和 6 年 497,000 10,000 人
設定根拠：	入込客数について、第2次甲府市観光振興計画では、暦年で年3.8%の増加目標としている（5年間で19%増）、同計画では外国人観光客数の数値目標はなく、外国人宿泊者数を位置付けており同様に年3.8%増とした。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	日本遺産の認知度について、住民アンケートにより把握（甲府市、甲斐市）
関連事業：	④ ⑤ ⑦ ⑧
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 60 %
設定根拠：	市広報や市民を対象とした啓発イベント等により日本遺産の認知度向上を図る
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数
具体的な指標：	認定ストーリーに関連したテーマツアーの造成
関連事業：	② ③ ⑥ ⑬ ⑭
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 5 件
設定根拠：	やまなし観光推進機構及び機構会員企業によるツアー造成・販売計画
計画評価指標：	日本遺産への協力者数
具体的な指標：	甲府市民、甲斐市民に加え、熱心なリピーター客で構成する「日本遺産サポーターズクラブ」を設置し、毎年30名ずつ新規会員を登録する。
関連事業：	④ ⑤ ⑧
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 150 人
設定根拠：	地元住民及び県内外の昇仙峡ファン・リピーターの方々で構成する「日本遺産サポーターズクラブ」の登録者数。
設定目標Ⅳ：	その他
計画評価指標：	昇仙峡観光協会が毎年実施している環境整備活動へのサポーター参加者数
具体的な指標：	日本遺産サポーターズクラブの会員参加を毎年5名ずつ増やす
関連事業：	
目標値：	令和 2 年度 5 ⇒ 令和 6 年度 35 人
設定根拠：	これまで関係者のみで行っていた河川清掃等の作業について、地元市の住民、更に新たに設置した日本遺産サポーターズクラブ会員の参加を呼びかけて行う。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

（5）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光入込客数及び外国人宿泊者数
具体的な指標：	甲府市の観光統計における入込客数及び外国人宿泊者数
関連事業：	② ③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
目標値： 入込客数 外国人宿泊者数	令和 1 年 415,000 8,000 人 ⇒ 令和 6 年 497,000 10,000 人
設定根拠：	入込客数について、第2次甲府市観光振興計画では、暦年で年3.8%の増加目標としている（5年間で19%増）、同計画では外国人観光客数の数値目標はなく、外国人宿泊者数を位置付けており同様に年3.8%増とした。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	日本遺産の認知度について、住民アンケートにより把握（甲府市、甲斐市）
関連事業：	④ ⑤ ⑦ ⑧
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 60 %
設定根拠：	市広報や市民を対象とした啓発イベント等により日本遺産の認知度向上を図る
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数
具体的な指標：	認定ストーリーに関連したテーマツアーの造成
関連事業：	② ③ ⑥ ⑬ ⑭
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 5 件
設定根拠：	やまなし観光推進機構及び機構会員企業によるツアー造成・販売計画
計画評価指標：	日本遺産への協力者数
具体的な指標：	甲府市民、甲斐市民に加え、熱心なリピーター客で構成する「日本遺産サポーターズクラブ」を設置し、毎年30名ずつ新規会員を登録する。
関連事業：	④ ⑤ ⑧
目標値：	令和 2 年度 なし ⇒ 令和 6 年度 150 人
設定根拠：	地元住民及び県内外の昇仙峡ファン・リピーターの方々で構成する「日本遺産サポーターズクラブ」の登録者数。
設定目標Ⅳ：	その他
計画評価指標：	昇仙峡観光協会が毎年実施している環境整備活動へのサポーター参加者数
具体的な指標：	日本遺産サポーターズクラブの会員参加を毎年5名ずつ増やす
関連事業：	
目標値：	令和 2 年度 5 ⇒ 令和 6 年度 35 人
設定根拠：	これまで関係者のみで行っていた河川清掃等の作業について、地元市の住民、更に新たに設置した日本遺産サポーターズクラブ会員の参加を呼びかけて行う。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業①： 便益施設の設置 (トイレのリニューアル)				
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 6,000千円	令和4年度：	0千円
事業概要：	市が設置しているトイレをウォシュレットを完備した洋式トイレにリニューアルする。(2カ所)			
具体的な指標：	観光客の満足度			
目標値：	令和 2 年度	60 %	⇒	令和 6 年度 90 %
事業②： 構成資産の解説表示板、案内表示板等の整備				
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和 4 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 0千円	令和4年度：	10,000千円
事業概要：	昇仙峡ブランディング調査研究の成果を活用し、統一感のあるデザインや字体を用い多言語対応のサイン、看板類、解説板等のリニューアルを行う。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業③： 便益施設の設置 (散策路等におけるベンチ等の設置)				
	活用整備	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,500千円	令和4年度：	1,250千円
事業概要：	昇仙峡エリアの散策道は延長4キロメートルを超えることから、休憩施設としてベンチ等を設置する。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業④： 昇仙峡ガイド養成事業				
事業区分：	人材育成	事業期間：	令和 2 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 3,940千円	令和3年度： 960千円	令和4年度：	300千円
事業概要：	国内外からの来訪者が、構成文化財や昇仙峡の持つ歴史などを分かり易く理解し、周遊できるよう資料整理、多言語対応のガイドブック作成を行い、地域住民等による有償ガイドを育成する。			
具体的な指標：	有償ガイドの利用者数 (毎年2名のガイド育成を行い、各ガイドの活動を年間20日、ガイドツアー参加者数を各回10名として積算)			
目標値：	令和 2 年度	0 人	⇒	令和 6 年度 2,000 人
事業⑤： 構成文化財再発見事業				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度：	0千円
事業概要：	構成資産である①水晶 ②研磨技術とジュエリー産業 ③金櫻神社と羅漢寺 ④御嶽新道と文人、などの題材ごとの調査資料を作成し、市民や子供を対象とした講座や講演会、体験・見学ツアー、シンポジウムなどを開催する。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 80 %

（6）地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）

事業①： 便益施設の設置（トイレのリニューアル）				
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 6,000千円	令和4年度：	0千円
事業概要：	市が設置しているトイレをウォシュレットを完備した洋式トイレにリニューアルする。（2カ所）			
具体的な指標：	観光客の満足度			
目標値：	令和 2 年度	60 %	⇒	令和 6 年度 90 %
事業②： 構成資産の解説表示板、案内表示板等の整備				
事業区分：	活用整備	事業期間：	令和 4 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 0千円	令和4年度：	10,000千円
事業概要：	昇仙峡ブランディング調査研究の成果を活用し、統一感のあるデザインや字体を用い多言語対応のサイン、看板類、解説板等のリニューアルを行う。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業③： 便益施設の設置（散策路等におけるベンチ等の設置）				
	活用整備	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,500千円	令和4年度：	1,250千円
事業概要：	昇仙峡エリアの散策道は延長4キロメートルを超えることから、休憩施設としてベンチ等を設置する。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業④： 昇仙峡ガイド養成事業				
事業区分：	人材育成	事業期間：	令和 2 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 3,940千円	令和3年度： 960千円	令和4年度：	300千円
事業概要：	国内外からの来訪者が、構成文化財や昇仙峡の持つ歴史などを分かり易く理解し、周遊できるよう資料整理、多言語対応のガイドブック作成を行い、地域住民等による有償ガイドを育成する。			
具体的な指標：	有償ガイドの利用者数（毎年2名のガイド育成を行い、各ガイドの活動を年間20日、ガイドツアー参加者数を各回10名として積算）			
目標値：	令和 2 年度	0 人	⇒	令和 6 年度 2,000 人
事業⑤： 構成文化財再発見事業				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度：	0千円
事業概要：	構成資産である①水晶 ②研磨技術とジュエリー産業 ③金櫻神社と羅漢寺 ④御嶽新道と文人、などの題材ごとの調査資料を作成し、市民や子供を対象とした講座や講演会、体験・見学ツアー、シンポジウムなどを開催する。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 80 %

事業⑥：日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施（ファミトリップ）				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	2,000千円
			令和 4 年度：	0千円
事業概要：	昇仙峡の構成文化財などを、年齢や目的、国籍などの属性ごとに周遊するコースなどを造成し、国内外の旅行事業者を対象としたモニターツアーを実施する。			
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数			
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度 5 件
事業⑦：日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施（学校向け社会科見学ツアー）				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	2,000千円
			令和 4 年度：	0千円
事業概要：	昇仙峡を社会科見学のコースとして市内小・中学生が訪れるように、年齢にマッチしたテーマやコースを設定し、小・中学校の教諭等を対象としたモニターツアーを実施し、普及啓発を行う。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 60 %
事業⑧：日本遺産を理解するためのイベントの実施（研磨体験事業）				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度：	1,000千円	令和 3 年度：	1,000千円
			令和 4 年度：	1,000千円
事業概要：	「宝石のまち・甲府」の礎となった研磨技術を体験するイベントを開催し、普及啓発を行う。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 60 %
事業⑨：昇仙峡総合学術調査研究				
事業区分：	調査研究		事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度：	3,400千円	令和 3 年度：	3,400千円
			令和 4 年度：	3,400千円
事業概要：	昇仙峡地帯の地質調査をはじめ、自然、民俗芸能、文化財、信仰等について、幅広く学術的な知見から総合的な調査を実施する。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業⑩：未指定文化財の調査研究（修験道に関する更なる研究）				
事業区分：	調査研究		事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	3,000千円
			令和 4 年度：	0千円
事業概要：	修験道の元である蔵王権現と金櫻神社、旧羅漢寺に関する調査研究を進め、更なる文献調査、遺構調査を行う。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人

事業⑪：	古道に関する調査研究					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 3 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	2,000千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	覚円峰の上部を通る江戸時代の生活道路など、昇仙峡における複数ルート of 調査研究を進め、古道の歴史を探るとともに、新たな観光ルートへの活用を検討する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	
事業⑫：	嗜好性調査（観光客の動向調査）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	11,950千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	山梨県を訪れる観光客が、どのようなルートで来訪し、移動しているのか行動パターンを分析することにより、ターゲットの明確化と効果的な情報発信手法などの戦略を立案する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	
事業⑬：	その他（ロードバイクやマウンテンバイク等サイクリングコースの調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	2,000千円
事業概要：	新たな観光アクティビティとして、ロードバイクやマウンテンバイクのコース等を研究して、新たなツアー商品開発の参考とする。					
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数					
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度	5 件	
事業⑭：	その他（新たなアクティビティの調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	3,000千円
事業概要：	昇仙峡の特徴である巨岩、奇岩、清流を体験できるキャニオニングやシャワークライミング、ロッククライミング、ラフティング等新たなアクティビティの導入可能性に関する調査研究を行う。					
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数					
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度	5 件	
事業⑮：	その他（昇仙峡エリアのブランディング化に向けた調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	10,000千円
事業概要：	構成資産の景観と親和性のあるデザイン性、視認性に優れたサイン設置に向けた調査研究や、昇仙峡のブランド力（価値、強み）を確立するための手法を研究し、広報、誘客事業に反映する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	

事業⑥：日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施（ファミトリップ）				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度： 0千円	令和 3 年度： 2,000千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	昇仙峡の構成文化財などを、年齢や目的、国籍などの属性ごとに周遊するコースなどを造成し、国内外の旅行事業者を対象としたモニターツアーを実施する。			
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数			
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度 5 件
事業⑦：日本遺産への来訪者を増やすためのモニターツアーの実施（学校向け社会科見学ツアー）				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度： 0千円	令和 3 年度： 2,000千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	昇仙峡を社会科見学のコースとして市内小・中学生が訪れるように、年齢にマッチしたテーマやコースを設定し、小・中学校の教諭等を対象としたモニターツアーを実施し、普及啓発を行う。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 60 %
事業⑧：日本遺産を理解するためのイベントの実施（研磨体験事業）				
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 1,000千円	令和 3 年度： 1,000千円	令和 4 年度：	1,000千円
事業概要：	「宝石のまち・甲府」の礎となった研磨技術を体験するイベントを開催し、普及啓発を行う。			
具体的な指標：	日本遺産の認知度			
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒	令和 6 年度 60 %
事業⑨：昇仙峡総合学術調査研究				
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度	～ 令和 4 年度
事業費：	令和 2 年度： 3,400千円	令和 3 年度： 3,400千円	令和 4 年度：	3,400千円
事業概要：	昇仙峡地帯の地質調査をはじめ、自然、民俗芸能、文化財、信仰等について、幅広く学術的な知見から総合的な調査を実施する。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人
事業⑩：未指定文化財の調査研究（修験道に関する更なる研究）				
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 3 年度	～ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度： 0千円	令和 3 年度： 3,000千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	修験道の元である蔵王権現と金櫻神社、旧羅漢寺に関する調査研究を進め、更なる文献調査、遺構調査を行う。			
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数			
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年 497,000 人

事業⑪：	古道に関する調査研究					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 3 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	2,000千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	覚円峰の上部を通る江戸時代の生活道路など、昇仙峡における複数ルート of 調査研究を進め、古道の歴史を探るとともに、新たな観光ルートへの活用を検討する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	
事業⑫：	嗜好性調査（観光客の動向調査）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	11,950千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	0千円
事業概要：	山梨県を訪れる観光客が、どのようなルートで来訪し、移動しているのか行動パターンを分析することにより、ターゲットの明確化と効果的な情報発信手法などの戦略を立案する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	
事業⑬：	その他（ロードバイクやマウンテンバイク等サイクリングコースの調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	2,000千円
事業概要：	新たな観光アクティビティとして、ロードバイクやマウンテンバイクのコース等を研究して、新たなツアー商品開発の参考とする。					
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数					
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度	5 件	
事業⑭：	その他（新たなアクティビティの調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	3,000千円
事業概要：	昇仙峡の特徴である巨岩、奇岩、清流を体験できるキャニオニングやシャワークライミング、ロッククライミング、ラフティング等新たなアクティビティの導入可能性に関する調査研究を行う。					
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数					
目標値：	令和 2 年度	0	⇒	令和 6 年度	5 件	
事業⑮：	その他（昇仙峡エリアのブランディング化に向けた調査研究）					
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 4 年度	～	令和 年度	
事業費：	令和 2 年度：	0千円	令和 3 年度：	0千円	令和 4 年度：	10,000千円
事業概要：	構成資産の景観と親和性のあるデザイン性、視認性に優れたサイン設置に向けた調査研究や、昇仙峡のブランド力（価値、強み）を確立するための手法を研究し、広報、誘客事業に反映する。					
具体的な指標：	調査対象文化財への観光客数					
目標値：	令和 2 年	415,000 人	⇒	令和 6 年	497,000 人	

事業⑩ :	広報物の作成		
事業区分 :	情報コンテンツ作成	事業期間 :	令和 4 年度 ~ 令和 年度
事業費 :	令和 2 年度 : 0千円	令和 3 年度 : 0千円	令和 4 年度 : 3,000千円
事業概要 :	調査研究事業の成果（構成資産に関する新たな事実や散策ルート等）を反映した国内外に向けたパンフレット等広報物を作成する。		
具体的な指標 :	外国人宿泊者数		
目標値 :	令和 2 年 8,000 人	⇒	令和 6 年 10,000 人

事業⑩：	広報物の作成		
事業区分：	情報コンテンツ作成	事業期間：	令和 4 年度 ~ 令和 年度
事業費：	令和 2 年度： 0千円	令和 3 年度： 0千円	令和 4 年度： 3,000千円
事業概要：	調査研究事業の成果（構成資産に関する新たな事実や散策ルート等）を反映した国内外に向けたパンフレット等広報物を作成する。		
具体的な指標：	外国人宿泊者数		
目標値：	令和 2 年 8,000 人	⇒	令和 6 年 10,000 人

(7) その他事業

事業①:	日本遺産サポーターズクラブ設置事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会	事業期間:	平成 2 年度 ~ 令和 3 年度
事業概要:	県内外の昇仙峡ファン、リピーターの方々を「日本遺産サポーター」として登録してもらい、地域美化活動や各種イベントへの参加を促す仕組みを構築する。		
事業②:	日本遺産関連土産商品開発事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会、甲府市観光協会	事業期間:	平成 2 年度 ~ 令和 6 年度
事業概要:	日本遺産のストーリーにマッチした、新たな土産品や食事メニューの開発を行う。		
事業③:	日本遺産情報発信事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡のイメージに基づき、その魅力を伝えるために、ホームページやSNS等を通じて国内外へ情報発信を行う。		
事業④:	昇仙峡の樹木伐採事業		
実施主体:	山梨県・甲府市・昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡の景観を向上させるために、マツクイムシなどで枯死した樹木や、景観を阻害する樹木の伐採を行う。		
事業⑤:	昇仙峡遊歩道の整備		
実施主体:	山梨県・甲府市・昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡を散策する方の観光意欲と利便性を高めるために、遊歩道等の整備を行う。		
事業⑥:	サイクリングコースを活用したツアーの実施		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究されたロードバイクやマウンテンバイク等のサイクリングコースを活用したツアーを実施する。		
事業⑦:	古道を活用したツアーの実施		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究された古道ルートを活用したツアーを実施する。		
事業⑧:	新たなアクティビティの提供		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究結果をもとに新たなアクティビティの提供を行い昇仙峡の新たな魅了創出を図る。		
事業⑨:			
実施主体:		事業期間:	平成 年度 ~ 令和 年度
事業概要:			
事業⑩:			
実施主体:		事業期間:	平成 年度 ~ 令和 年度
事業概要:			

様式4 (別紙③)

(7) その他事業

事業①:	日本遺産サポーターズクラブ設置事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会	事業期間:	平成 2 年度 ~ 令和 3 年度
事業概要:	県内外の昇仙峡ファン、リピーターの方々を「日本遺産サポーター」として登録してもらい、地域美化活動や各種イベントへの参加を促す仕組みを構築する。		
事業②:	日本遺産関連土産商品開発事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会、甲府市観光協会	事業期間:	平成 2 年度 ~ 令和 6 年度
事業概要:	日本遺産のストーリーにマッチした、新たな土産品や食事メニューの開発を行う。		
事業③:	日本遺産情報発信事業		
実施主体:	昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡のイメージに基づき、その魅力を伝えるために、ホームページやSNS等を通じて国内外へ情報発信を行う。		
事業④:	昇仙峡の樹木伐採事業		
実施主体:	山梨県・甲府市・昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡の景観を向上させるために、マツクイムシなどで枯死した樹木や、景観を阻害する樹木の伐採を行う。		
事業⑤:	昇仙峡遊歩道の整備		
実施主体:	山梨県・甲府市・昇仙峡観光協会	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	昇仙峡を散策する方の観光意欲と利便性を高めるために、遊歩道等の整備を行う。		
事業⑥:	サイクリングコースを活用したツアーの実施		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究されたロードバイクやマウンテンバイク等のサイクリングコースを活用したツアーを実施する。		
事業⑦:	古道を活用したツアーの実施		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究された古道ルートを活用したツアーを実施する。		
事業⑧:	新たなアクティビティの提供		
実施主体:	民間団体	事業期間:	令和 5 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	調査研究結果をもとに新たなアクティビティの提供を行い昇仙峡の新たな魅了創出を図る。		
事業⑨:			
実施主体:		事業期間:	平成 年度 ~ 令和 年度
事業概要:			
事業⑩:			
実施主体:		事業期間:	平成 年度 ~ 令和 年度
事業概要:			